

# 2022年2月期 第1四半期決算概要

単位：億円	2021年2月期 1Q累計 実績	2022年2月期 1Q累計	
		実績	前年同期比
営業収益	1,118	<b>1,267</b>	+149
事業利益	90	<b>280</b>	+190
持分法投資損益	▲ 2	<b>▲ 4</b>	△ 2
その他の損益	▲ 26	<b>▲ 15</b>	+ 11
金融損益	▲ 15	<b>▲ 18</b>	△ 2
税引前当期利益	47	<b>244</b>	+198
法人所得税費用	21	<b>▲ 70</b>	△ 91
非支配持分損益	▲ 10	<b>▲ 39</b>	△ 29
親会社所有者帰属利益	58	<b>135</b>	+ 77

単位：億円	2021年2月期 実績	2022年2月期 1Q	
		実績	前年度末比
流動資産	5,840	<b>6,558</b>	+718
非流動資産	13,122	<b>12,673</b>	△450
使用権資産	5,812	<b>5,684</b>	△128
有形固定資産	1,419	<b>1,318</b>	△101
その他の金融資産	2,053	<b>1,803</b>	△249
その他	3,839	<b>3,868</b>	+ 29
負債	12,799	<b>13,052</b>	+253
有利子負債	1,148	<b>994</b>	△154
その他	11,651	<b>12,058</b>	+407
資本	6,164	<b>6,179</b>	+ 15

## 今期決算 トピックス

- 創立40周年のマーケティング各施策に関連した新商品や販促企画が奏功し、既存店日商は前年比105.4%と前年を大きく上回った。
- クリスピーキンやコンビニンスウェア等の新たな看板商品、デザートやパン等の定番商品が販売好調。店舗の稼働状況も回復し、消費者の生活変容に応じた品揃え強化により、都市部を含む全ての立地で売上・客数は前年を上回った。
- 近年の構造改革の成果も加え、事業利益・親会社所有者帰属利益は前年同期より大きく改善。基礎収益ベースでの年間計画進捗率は43.5%となった。
- 台湾ファミリーマート株式一部譲渡は2021年6月に完了しており、評価損益は第2四半期決算に含まれる。

## 主要な前期差 増減

- 親会社所有者帰属利益 前年同期比+77億円 (58億円→135億円)
- 日商回復および販売管理費の改善 等 +106億円
  - 一過性利益における差異 (前期海外事業売却分 等) △ 29億円